

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果の特徴（和歌山県）

1 教科に関する調査結果

(1) 和歌山県（公立）と全国（公立）の平均正答率

単位：％

	小学校国語	小学校算数	中学校国語	中学校数学	小学校理科	中学校理科
県	65	63	66	50	63	46
全国	66	63	69	51	63	49

※平成28年度からは、学力面において、細かい桁における微小な差異は、実質的な違いを示すものではないため、平均正答率については整数値で示している。

(2) 和歌山県（公立）平均正答率と全国（公立）平均正答率との差の推移

単位：pt(ポイント)

	小学校国語		小学校算数		中学校国語		中学校数学		小学校理科	中学校理科
	A	B	A	B	A	B	A	B		
H27	0	0	1	0	-3	-3	0	-2	-2	-3
H28	-3	-2	-1	-1	-2	-4	0	-1		
H29	0	-1	0	0	0	-2	0	0		
H30	1	0	-1	-1	-1	-2	1	-2	0	-1
H31(R1)	0		-1		-3		-1			
R3	0		0		-4		-2			
R4	-1		0		-3		-1		0	-3

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響等により実施見送り。

※平成31年度からは、全ての教科において知識・活用を一体的に問う問題形式となったため、従来のAB区分がなくなっている。

(3) 調査結果の特徴

小学校は、全ての教科で全国平均と同程度の結果となっている。

中学校は、数学が昨年より改善し、全国平均と同程度の結果となったが、国語、理科は全国平均を下回った。

○成果

- ・小学校算数では、「数と計算」の平均正答率が全国平均を上回った。
- ・小学校理科では、「粒子」を柱とする領域の平均正答率が全国平均を上回った。

●課題

- ・中学校において、無解答率が全国平均よりやや高くなった。
- ・中学校国語では、論理の展開を捉えたり、場面の展開を描写を基に捉えたりすることに課題がある。
- ・中学校理科では、条件を制御したり、分析して解釈したりすることに課題がある。

2 質問紙調査結果

○成果

- ・小学校国語、算数、中学校数学、理科では、「授業の内容はよく分かる」と回答した子供の割合が、全国を上回った。

【全国差 小国語+2.2pt、小算数+2.1pt、中数学+2.0pt、中理科+1.0pt】→概要 P6(1)②

- ・「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」と回答した子供の割合が、全国を上回った。

【全国差 小学校+0.1pt、中学校+0.6pt】→概要 P9(4)③

●課題

- ・「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」と回答した子供の割合が、全国を下回った。

【全国差 小学校-1.0pt、中学校-2.0pt】→概要 P7(2)②

- ・「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した子供の割合が、全国を下回った。

【全国差 小学校-2.1pt、中学校-4.3pt】→概要 P8(3)①